

タレスの刻印

Thales' Engraving

夜空を見上げ、動きながら星々を記譜する

Looking up at the night sky and notating the stars while moving

Akamatsu Masayuki Solo Exhibition
2022.09.11(SUN)-2022.10.2(SUN)

NEORT++

タレスの刻印／Thales' Engraving (2022)

——夜空を見上げ、動きながら星々を記譜する

Looking up at the night sky and notating the stars while moving

本展示のタイトルは、古代ギリシアの哲学者、タレス(紀元前624~紀元前546年ごろ)のあるエピソードに由来している。タレスは、数学や天文学にも通じており、世界の起源を神話や寓話ではなく、合理的な理由によって説明しようとしたことでも知られている。タレスの定理、ピラミッドの高さの推定、日食の予言、オリーブの収穫予測……といった多岐にわたる業績が今も語り継がれている。このエピソードについて、赤松氏が解説を寄せてくれた。

ある夜、エーゲ海に面した都市国家ミレトスで、星空を見上げながら歩いていたタレスは、道端の溝に気が付かず転倒してしまいます。星々をつぶさに眺め、その真理を探ることに没頭していたからです。ここで重要なのは彼が移動していたことです。天体は一般的に堅牢な天文台で定点観測するので、彼の行動は奇異に感じられます。そこで彼の眼に脳裏に映った星々を想像してみましょう。それが「タレスの刻印」の本質です。移動しながら観察することは相対運動として複雑な事象を引き起こします。天動説か地動説かはさておき、地球に対する星々の動きに加えて観察者が動けば、さらに混沌とした多体運動となります。それは予測不可能な複雑性を持ち、流麗で魅惑的な表象が現れます。水面にインクを垂らして模様を写し取る墨流しのように、夜空の星々のダンスを感光させます。それが「タレスの刻印」の図像です。

特殊な撮影方法によって星空を長時間露光した写真および動画が、壁面投影と、物理パネルの双方のイメージを往復しながら私たちの前に立ち現れてくる。そこに浮かび上がるのは、星々の軌跡だけでなく、時には雲や雷、そして飛行機や人工衛星である。流動するイメージ、複雑な軌道。まさしく動く観察者、走る哲学者としてのタレスの視線が、浮かび上がってくるようである。近年、「クリティカル・サイクリング」などの活動を通して、モビリティとリアリティをテーマにテクノロジーが人と社会へ及ぼす影響を考察している赤松氏の姿とも重なるところだろう。日々複雑化していく世界に対して、向き合うための姿勢・態度とはまさに、「動き続けること」なのかもしれない。

構成・文 キュレーター：waxogawa



作品販売について

本展示では、NEORT++としては初の試みとなる、物理パネルの販売も行います。詳細は以下のリンクからご確認ください。

作品の購入詳細はこちら→

<https://thalesengraving.neort.io/>



赤松正行／Akamatsi Masayuki

1961年、兵庫県生まれ。メディア作家。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了、博士(美術)。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)メディア表現研究科研究科長・教授。クリティカル・サイクリング主宰。インタラクティブな音楽や映像作品を制作、近年はモビリティとリアリティをテーマに、テクノロジーが人と社会へ及ぼす影響を制作を通して考察している。

代表作に書籍「2061:Maxオデッセイ」、「iOSの教科書」、アプリ「Banner」、「Decision Free」、展覧会「TimeMachine!」、「ARアート・ミュージアム」など。「セカイカメラ」や「雰囲気メガネ」といった先進的なIT製品の開発にも携わり、アートの領域を広げようとしている。

NEORT++

オープン：14:00 - 19:00

休館日：月、火、祝日

住所：東京都中央区日本橋馬喰町 2-2-14 maruka 3F

Web：<https://two.neort.io>

Twitter：@neort_io

Insta：@neort_2

Please also check it out!

#NEORT2